

## 第2回 徳島市食育推進計画策定市民会議 議事録

開催日時	日時：令和7年11月5日（水）午後2時30分～	
開催場所	徳島市役所 8階 庁議室	
次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 委員の紹介</li> <li>3 議題 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 食育に関する市民アンケートについて</li> <li>(2) 第4期徳島市食育推進計画（素案）について</li> </ol> </li> <li>4 閉会</li> </ol>	
配布資料	資料1 食育に関する徳島市民アンケート調査結果報告書 資料2 第4期徳島市食育推進計画策定スケジュール 資料3 第5次食育推進基本計画の重点事項の方向性（案） 資料4 第4期徳島市食育推進計画の方向性（案） 資料5 徳島市食育推進計画（第4期）素案 参考資料1 アンケート単純集計表（14歳以下） 参考資料2 アンケート単純集計表（15歳以上） 参考資料3 （国）第4次計画の進捗状況と（市）第2～4期の進捗状況 参考資料4 （国）第5次食育推進基本計画の目標の設定について	

議事の経過	
議題(1) 第4期徳島市食育推進計画の策定体制について	
発言者	内容
事務局	<p>それでは議事に入りたいと思います。</p> <p>議事進行につきましては、会長にお願いしたいと思います。</p> <p>会長よろしく願いいたします。</p>
会長	<p>本日の議事に従いまして、会議を進めてまいります。</p> <p>議題(1) 食育に関する市民アンケートについて、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは資料1の食育に関する徳島市民アンケート調査結果報告書について説明を致します。なお、今回の調査結果は、第4期食育推進計画の資料として、ホームページに掲載を予定しております。本日は第4期食育推進計画素案のポイントを踏まえて、抜粋した調査報告書で説明をさせていただきたいと思います。</p> <p>まず1ページをご覧ください。調査対象は徳島市民としており、調査時点での年齢区分ごとに、14歳以下500人、15歳以上1,500人の合計2,000人を住民基本台帳より無作為に抽出いたしました。調査方法は、アンケート調査票の配布、回収とともに、郵送により行い、回答は無記名となっております。調査期間は令和7年7月15日から8月14日までとし、回収率は34.5%となっております。</p> <p>続きまして、3ページをご覧ください。「食育」の認知度ですが、「食育」の言葉も意味も知っている市民の割合は全体で49.1%になっておりました。前回、令和2年6月の調査に比べ1ポイント増加しております。性別で見ると、男性より女性の方が知っている割合が高くなっております。</p> <p>続きまして4ページをご覧ください。「食育」の関心度は、「関心がある」「どちらかと言えば関心がある」を合わせた回答は66.8%で、前回調査より7.1ポイント増加しております。</p> <p>また、6ページにあります、「食育」に関心がある理由としては、「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」が最も多く、次いで「生活習慣病の増加が問題になっているから」の回答が多い結果となっております。</p> <p>続いて7ページですが、「食育」の実践状況は、「積極的にしている」「できるだけするようにしている」を合わせた回答は49.4%で、前回調査より0.8ポイント増加しております。</p> <p>続きまして、9ページをご覧ください。⑥「食育」を効果的に行う場所については、「家庭」の81.7%が最も多く、次いで「学校」が70.5%という結果となっております。</p> <p>10ページをご覧ください。⑦「食育」を進める上で大切だと思う取組については、「食習慣の改善」が62.8%で最も多く、次いで「栄養のバランスの改善」が56.5%となっております。なお、前回調査から、「食品の安全性に関する知識の普及」が7ポイント増加しております。</p> <p>続きまして、13ページをご覧ください。③メタボリックシンドロームに該当する人の割合は14.4%でした。前回調査から2.4ポイント減少しております。</p>

発言者	内容
事務局	<p>16 ページをご覧ください。メタボリックシンドロームの予防や改善のための適切な食事や食生活を送っている人の割合は全体で見ると 32.7%という結果になっております。</p> <p>19 ページをご覧ください。食生活について、①朝ご飯の摂取状況では「ほぼ毎日食べている」が 85.2%で前回調査より 1.9 ポイント高くなっております。</p> <p>23 ページをご覧ください。⑦肥満度と主食・主菜・副菜をそろえた食事の摂取状況では、「毎日」と回答した人が、やせ型で 52.8%、肥満型で 40%となっており、12.8 ポイントの差が出ました。</p> <p>24 ページをご覧ください。⑨野菜摂取状況では、朝食では「ほとんど食べない」の割合が 4 割と高くなっております。</p> <p>続きまして、29 ページをご覧ください。⑫家族と一緒に食事をする頻度では、15 歳から 50 代で、「ほとんどない」と回答した方の割合が 4 割以上と高くなっております。また、30 ページの職業別にみると、会社員、学生アルバイトでは「ほとんどない」が最も多くなっております。</p> <p>35 ページをご覧ください。⑯家族との食事がほとんどない理由については、「家族との時間が合わないから」が 50.9%と最も高くなっております。</p> <p>37 ページをご覧ください。⑲食に関しての関心のある情報では、「献立・料理・レシピなど調理に関する情報」が 56.5%と高くなっております。</p> <p>38 ページをご覧ください。14 歳以下の給食に関する設問です。7 割以上のこどもが給食時間を楽しんでいると感じており、楽しい理由としては「おいしいから」や「みんなと一緒に食べられるから」が多く回答されました。また、「家で食べられない料理が食べられるから」といった回答も多くありました。</p> <p>40 ページをご覧ください。6 の食文化について、①徳島の郷土料理・伝統料理、食べ方・作法を受け継ぐことは大切だと思うかという設問では、85.8%の方が「そう思う」「とてもそう思う」と回答しました。また、7 の「地産地消」の認知度については、言葉の意味を知っており、実践しているといった割合は 40%で、前回調査より 6.4 ポイント増加しています。</p> <p>42 ページをご覧ください。「地産地消」に期待することについては、年齢別に見ると、いずれも「新鮮でおいしい農産物・水産物」の割合が最も高くなっており、あと、生産者が見えるということで言えば、「安全・安心な農産物・水産物」が得られるだとか、「旬を大切にした農産物・水産物」といった回答が多くなっております。</p> <p>43 ページをご覧ください。農林漁業体験については、「栽培体験をしたことがある」と回答した方は 59.4%。「漁業体験をしたことがある」と回答した方は 35.1%という結果が出ております。</p> <p>45 ページをご覧ください。②食べ残しを減らす努力や調理をするときに作り過ぎない心がけについては、年齢別に見ると、いずれも「必ずしている」の割合が最も高く、全体で見ると 46.2%の方が「必ずしている」と回答しております。食に関する市民アンケート調査の結果報告については以上です。</p>

発言者	内容
会長	<p>事務局から説明がございましたが、何かご質問等はございますか。</p> <p>今回のアンケートの回収率ですが、34.5%となかなか回答率が思わしくないところもあるかと思しますので、次回のアンケートを実施する際には、ぜひ WEB の調査等、回収方法を検討いただけたらと思っております。</p> <p>今回の調査結果で、14 ページ、15 ページに、性・年齢別肥満判定というのがあるかと思えますけれど、こちらの数値をみると、かなり女性の「やせ」が目立つ結果ではないかなと感じます。徳島市全体や徳島県での状況はいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>日頃は 40 歳以上の方を対象にしております、健康管理については主にメタボリックシンドロームの方を重点的にやっております。若い世代の「やせ（やせ型）」の方につきましては、統計的なものとか、支援的なところを十分にまだ取りかかれてはならないような状況なので、多いのか少ないのかというのは今持ち合わせがありませんが、メタボリックシンドロームに関しては 30%を超えているような状況になっております。</p>
会長	<p>おそらく県民栄養調査の結果と比較しても「やせ」の割合がかなり高い調査結果ではないかと思うのと、高齢世代になってきますと低栄養の問題も含まれていまして、その場合「低栄養」の判定基準は「やせ」の判定基準である BMI 値 18.5 よりも厳しい 20 になりますのでさらに割合が高くなるのではないかと思っております。</p> <p>今回のアンケートに答えてくださった方は、BMI が低い方の方が多く答えてくださったのかもしれないという印象を受けましたので、また徳島市全体のデータと今回のデータの比較ができればと思います。</p>
A 委員	<p>若年者、若い世代の女の子の「やせ」というのは全国的に問題となっております。</p> <p>やはりやせる事が良いと意識していることが多く、実際に学校健診行きましたら、男性の肥満は結構おられるのですが、女の子の肥満は比較的少なく、そこではスリムな方が多いと思います。また、それにつれて貧血などもありますので、注意して診る必要があります。高齢者につきましても「やせ」は、ロコモティブシンドロームとも関係しております。徳島市及び医師会の方も、高齢者の対策というのを積極的にしております。肥満だけでなくやせについても、食の大切さを市民公開講座等啓発活動において今後も進めていきたいと思っております。</p>
会長	<p>今後は、肥満とあわせて「やせ」の方も目を向けていただけたらと思います。</p> <p>また「食育」の 3 ページから 5 ページで、「食育」の認知度や関心度のデータについて、小・中学生ぐらいの世代で、認知度や関心度がそれほど高くないようなデータとなっている印象を受けるのですが、実際のところは、恐らく栄養教諭の先生方を中心に、小・中学校や幼稚園でも「食育」は実施されているのではないかと思います。年齢が低い世代では、アンケートを保護者が代わりに答えられているということで、関心が低いようなデータになっているのではないかと思います。印象が少しありますが、実際の現場の印象として、若い世代、小・中学校や幼稚園で、「食育」の関心について児童・生徒さんはどのように感じられているか、という状況についてのデータや印象について委員の先生方でご発言ございませんでしょうか。</p>

発言者	内容
B 委員	<p>預かっている子どもたちがうちでは小学生以下ということで、「食育」という言葉自体は、聞いたことあるとは思いますが、それほど当然子どもは意識しておらず、保護者もそこまで意識している人がいるかどうかというのは調査をしてないのでわからないですけど、実際子どもたちにいろんなもの食べさせてあげたいっていうような保護者の方は、肌感覚では結構おられると思います。</p> <p>ただ、最近色々な物価が高いので、やはりそれで食が偏るとか、あとこどものわがままというのに対応できず、駄目なものは駄目、良いものは良いというところで、自分が欲しいと言えば夕食はそれになるような家庭もあります。家庭の中の話なので施設等でお話をしても、強制力はないということで難しいところではあります。大半の保護者の方は、「食育」というか「食生活」には興味関心があり、きちっとしたいという思いはあるように感じます。</p>
会長	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>その他、何かございますか。</p>
C 委員	<p>私自身は保護者なので保護者の意見といいますと、D 小学校は PTA で「食育」などの取組をしております。</p> <p>コロナ禍で一度やめていたのですが、昨年、給食試食会を始めて、給食はどういうものを使って作られているか、作っている方の想いなど、結構子どもたちにも伝わっているようで、大きな声で「ごちそうさまでした」を言うようにするとか、子どもたちの中ですごく広まっているので、親はそれを知るべきかなということ、給食試食会で知りました。「食育」とは何かというので PTA で講習会をしたところ、うちの学校は分母が多いので抽選になってしまったのですが、家庭科室等で講師の先生を呼んで実施したところすごく好評で、またして欲しいという声が多かったです。</p> <p>今年度は先週に、「食育」というか給食試食会をして 30、40 名ほど来られて、今回は給食センターの会長さんが来られていろんな話をお聞きしたところ、親として知らないことが多かったです。例えば 9 月 1 日が和風ハンバーグ、9 月 2 日がカレーライス、9 月 3 日が八宝菜、9 月 4 日が高野豆腐となっており、9 月 4 日がなぜ高野豆腐なのかと思うと、夏休み終わりの登校渋りというのがあるみたいで、それを食で学校に呼び込もうということで先生が考えてくださったみたいです。</p> <p>徳島市全部の小学校でそのメニューだったと思うのですが、そういうことは、意外と親は知らなくて、私も今回給食試食会で知りました。そういう取組をしてくださっているのに、保護者に届いていないというのはすごくもったいないなと思いました。</p> <p>結局「食育」をしたい方がたくさんいるのに、そこが親に届いていないので、もうちょっと情報発信なり、学校でしていることをシェアできることがすごく大事だと思います。そこと「食育」というのは繋がるかなと思うので、せっかく子どもたちが給食すごくおいしくて食べてくれているし、レシピとかも保護者に結構教えて下さる。でも同じものが作れなくて、学校で作っているのはどうしておいしいかという理由とかもきっと親は知りえないので、知っている人は知っているのですけ</p>

発言者	内容
C 委員	<p>れど知らない人はもっともっと知れたら良いなと思います。PTA でいろいろ活動をしており、これからもしていくつもりなので、「今の小学校、中学校はそういう現状です。」ということをお伝えします。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>小・中学校の現状ということで、特に学生の時というのは、保護者の方の影響が非常に大きいと思います。今回のアンケートでも「食育」を効果的に行う場として「家庭」が上位に挙げられておりましたので、貴重な意見を頂いたのではないかなと思います。</p> <p>小学校や幼稚園でも「食育」が盛んに行われているということで、ぜひ、その情報が保護者にも伝わって、そこから「家庭」ということと、また「家庭」での興味が高い保護者の方が多い一方で、関心が薄い方が取り残されないように学校での教育が全体を包むような方向に持っていただけたらいいかなと思います。</p> <p>アンケートの結果につきまして、その他、何かご意見はございますか。</p> <p>そうしましたら、他にございませんので、続いての議題に移らせていただきます。</p>

議事の経過	
議題（2） 第4期徳島市食育推進計画（素案）について	
発言者	内容
会長	議題（2）第4期徳島市食育推進計画（素案）について事務局から説明をお願いいたします。
事務局	<p>それでは計画の素案について、まずは今後の流れを、資料2のスケジュールに沿いまして、ご確認させていただきます。</p> <p>まず、資料2、第四期徳島市食育推進計画策定スケジュールをご覧ください。上から2番目の市民会議の表をご覧ください。本日、委員の皆様からいただきましたご意見を踏まえまして、整理したものを、計画素案として、12月の市議会に提出いたします。その後、パブリックコメントを実施しまして、2月に第3回目の市民会議を開催後、最終3月に本計画の策定を予定しております。スケジュールにつきましては以上となります。</p> <p>次に資料3、第5次食育推進基本計画の重点事項の方向性（案）をご覧ください。こちらは9月22日開催の国の第3回食育推進評価専門委員会にて発出された資料となります。国の骨子案は11月中旬に発表される予定になっておりますが、今回はこちらの方向性について説明いたします。</p> <p>2ページをご覧ください。下の太字の部分になりますが、国の第5次計画の方向性では、(1) 学校等での食や農に関する学びの充実、(2) 健全な食生活の実践に向けた「大人の食育」の推進、(3) 国民の食卓と生産現場の距離を縮める取組の拡大、の3つが重点事項の方向性として示されているところでございます。</p> <p>なお、この方向性につきましては、資料の6ページをご覧ください。本年4月に閣議決定されております『食料・農業・農村基本計画』において「食育」の取組の推進として、同様の方向性が、こちらでも示されているところでございます。</p> <p>次に資料4、第4期徳島市食育推進計画の方向性（案）をご覧ください。これは第2期、第3期の食育計画と第4期の素案の骨子を対比したものでございます。次期計画の方向性としましては、これまでの食育計画を踏襲しつつ、議題1の今回のアンケート調査結果や国の方向性を踏まえて計画を策定することとしております。</p> <p>それでは、第4期の素案につきまして、資料5で説明をさせていただきます。資料4もあわせてご覧ください。まず1ページから3ページまでは、このたびの計画策定の趣旨と背景、計画の位置付けや計画の期間、また策定体制について記載をしております。2ページの下段、計画の期間について、今回の計画期間は令和8年度から令和13年度までの6年間の設定としております。これは、市町村の食育計画は、食育基本法におきまして、国や県の計画を基本として策定に努めるよう定められているところでございますが、これまでの計画期間を示した表からわかりますように、市が計画を更新している時期と、国・県が更新する時期が重なってしまっているのが現状となっております。</p> <p>このことから、今回1年間延長しまして、6年間の計画期間とすることで、次回の更新の際には、国・県の食育計画の更新内容を、十分反映できるように考えたものとなっております。</p>

発言者	内容
事務局	<p>次に4ページをお願いします。こちらは第3期計画の取組実績です。担当課において3段階の評価をいただいたものを事務局で整理いたしました。</p> <p>41個の取組内容のうち、計画通り進行中の取組が38個、未実施の取組が2個、完了した取組が1個となっております。未実施の取組につきまして、一つ目は、1－（5）歯・口腔の健康増進に向けた取組で、新型コロナウイルスの流行により事業の実施ができなかったものでございます。二つ目は、3－（3）関係団体等との連携による食育の推進で、こちらに関しましては、第3期計画中で取組は未実施となっておりますが、今後の国の方向性において、生産現場との連携や事業所への食育活動などが示されているところでございますので、今後の国の動向も踏まえながら、関係課と施策に取組んでいくよう考えております。</p> <p>7ページをご覧ください。こちらは、市民アンケート結果から読み取れる本市の現状と課題についてです。まず、①「食育」の関心度については、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた、【関心がある】と回答した割合が66.8%となっております。次に、②「食育」を進める上で大切だと思う取組では、市民からは望ましい食習慣や知識の習得や栄養バランスに配慮した食生活の実践等の取組を進めることが求められております。次に、③肥満度では、男性の「肥満」や女性の「やせ」などの食生活に起因する課題に対する取組が必要であるということや、⑥主食・主菜・副菜を揃えた食事の摂取状況からは、栄養バランスに配慮した食事を習慣的にとることが必要であると考えられます。</p> <p>8ページをご覧ください。⑦家族との共食の頻度では、朝ご飯の家族との共食の割合は15歳～50代では4割以上が「ほとんどない」と回答しており、共食の機会を意識して設けて、人や地域の繋がりの大切さを伝えていくことが大切であると考えています。次に、⑨地産地消の意識については、19歳以下では実践していない方や、言葉や意味を知らない方の割合が高くなっており、地産地消に関する情報発信などの取組が必要と考えています。また、⑩農業漁業体験では、米や野菜生産者との、小さい頃からの交流や、田植えや野菜づくりなどの農業体験の推進に関する取組が必要と考えているところでございます。</p> <p>9ページをご覧ください。第3章、計画の基本的な考え方でございます。まず1の基本理念につきましては、これまでの計画の基本理念を継承し、『食を通じて元気な「からだ」と豊かな「こころ」を育みます。』といたしました。理念の実現に向けて、市民一人一人に心がけていただいただく2の基本目標につきまして、（1）から（10）までは、第3期計画の基本目標を継承し、この度（11）として、農林水産省の食育白書でも掲載されている、災害時に備えた食育の推進に関する項目として「食においても、万が一の備えを整え、大切な家族と自分自身を守りましょう。」を追加いたしました。</p> <p>11ページからの重点プロジェクトにつきましては、基本理念の実現に向け、本市の特性に応じて重点的に推進するプロジェクトとして、これまでの計画にありました（1）豊かな人間形成のための保育所・認定こども園、幼稚園、学校における食育の推進と、（2）健康寿命の延伸のためのライフステージに応じた食育の推進に加</p>



発言者	内容
事務局	<p>えて、このたび、国の方向性案にもあります、健全な食生活の実践に向けた「大人の食育」の推進を踏まえ、本市の計画でも、「大人の食育」を推進することを重点プロジェクトとして、12 ページ（3）健全な食生活の実践のための「大人の食育」の推進を新たに追加いたしました。</p> <p>次に 13 ページをご覧ください。4 の施策の体系でございますが、基本施策 1 ～ 5 の 5 つの施策及び施策の展開につきましては、これまでと同じ構成とするよう考えておりますが、14 ページの最後に、国の重点事項の方向性にも示されている、大人の食育の推進を基本施策 6 として追加いたしました。取組内容につきましては、徳島市の事業の実施状況を踏まえ、これまでの施策を継続することとしますが、先ほど説明させていただきました基本目標及び重点プロジェクトの修正に伴い基本施策 1 の（6）災害等の非常時に備えた家庭での備蓄推進に向けた取組、施策 6 の大人の食育の推進を追加するとともに、国の第 4 次食育推進基本計画でも目標として掲げている、共食に関する項目として、新たに基本施策 1 の家庭における食育の推進及び基本施策 3 の地域における食育の推進の中に「共食に関する情報の発信」という取組を追加しております。</p> <p>15 ページをご覧ください。市民アンケートの結果と、国の目標を参考に、目標指標と目標値を設定いたしました。</p> <p>16 ページをご覧ください。農林水産省では、食育の取組を、こどもから大人まで誰でもわかりやすく発信するため、表現を単純化し、多くの人が使用することを目的とした「食育ピクトグラム」を作成しており、本市の計画でも「食育ピクトグラム」を活用したいと思います。</p> <p>17 ページから 30 ページまでの施策の展開では、施策ごとの現状・課題と取組の方向性と、詳細な取組内容を記載しておりますが、こちらも庁内の関係課において、計画に盛り込む取組内容を取りまとめた結果となっております。説明は以上でございます。</p>
会長	事務局から説明がございましたが、何かご質問等はございますか。
E 委員	非常に基本的な質問なのですが、この学校食育リーダーの方は、栄養教諭さんとはまた別と思うのですが、どういう方がやっていらっしゃるのでしょうか。
学校教育課	<p>ご質問いただきました学校食育リーダーですけれども、県にならって徳島市でも同じようにしておりますが、徳島市では、幼稚園から高等学校まですべての幼稚園、小学校、中学校、高等学校にそれぞれ 1 名置いております。</p> <p>先ほどおっしゃられたように、栄養教諭がいる学校については、栄養教諭が食育リーダーとなっております。それ以外の幼稚園や、小中の未配置の学校につきましては、教諭の方であったり、養護教諭の方であったり、食育リーダーという職があるわけではないのですが、食育リーダーとして、学校の校内での食育推進の計画を立てたり、コーディネートをするという役割をしております。</p>
F 委員	7 ページの⑤朝食の摂取状況ですけれど、男性は 20～30 代で「ほぼ毎日食べている」が 59.0%、これに対して、先ほどの市民アンケートのところで 20～30 代

発言者	内容
F 委員	69.2%と記載されている。市民アンケートの方は年齢別の記載しかなく、男女別年齢別のグラフがない。素案にこの一文を入れるのであればアンケート調査結果報告書の方に男女別年齢別のグラフが必要ではないでしょうか。
事務局	ご指摘ありがとうございます。内容を確認し、調査結果報告書のグラフの修正を考えていきたいと思います。
会長	<p>その他、何かご質問はございませんでしょうか。</p> <p>8 ページの「⑨地産地消の意識について」ですけれども、「19 歳以下では実践はしていない方や、言葉や意味を知らない方が他の年齢と比べて高くなっており～」というところで、19 歳以下というのは、小・中・高校生の世代であり、「地産地消」の実践は、食事を準備するという立場になる方の取組が中心になるかと思いますので、具体的な取組がしづらい年代かもしれないということと、学校給食の中では、「地産地消」を取り入れたメニューを提供されているなど、先ほど保護者の方に給食の紹介をするお話もあったかと思うので、実際にやられているけど「地産地消」ということの認識ができていないという現状なのではないかと思います。言葉の意味を知るということも大事ではありますが、実際にそういった取組がされているということをしちんと認識することができれば、もう少し高く意識してもらうことが可能なのではないかと、捉え方によっては、実際にはもう少し浸透しているのではないかと感じましたので、伝え方といいますか、「地産地消」の若い世代の捉え方や伝え方というのは、工夫していただけたらいいのではないかと思います。</p> <p>今回、食育推進計画の素案が出されておりますけれども、こちらではほぼ案が確定していく形になっていくかと思いますので、ぜひご意見等ございましたら、それぞれの立場からご意見いただけたらと思います。</p>
E 委員	<p>この資料を全部読ませていただいて、本当に非常に細かい点まで配慮が行き届いたすばらしい計画だと感じました。</p> <p>ただ「食育」というのは、私は生産者ですので、食に関する知識を醸成するというのを「食育」と書いてあったのですけれど、「栄養」とか「食文化を継承して」とか、もちろんなのですが、でも食べ物の根本は食べ物がどのようにしてできているかというのを知ることが大事ではないかと思います。食べ物の川上と川下両方を知ってもらうことが大事ではないでしょうか。ほぼ「栄養」「健康」というのがメインになっていると思います。私は農業生産者なので、20 年ぐらい前から地元の小学生、2 年生と縁がありまして、この 20 年間 120 名ぐらいの農業体験を受け入れています。その間にいろいろ幼稚園とか、中学校の職業体験とか高校生とか大学生とか、農政部の方とか、いろんな方が体験の要請がありまして、受け入れてきたのですが、もう本当に年々食と農の乖離というのはものすごい勢いで進んでいます。中学生を稲刈りに連れていくと、「これどこを食べるん？」と言います。「大根は土の中に生えとるんで」と言います。</p> <p>今、登下校中に食べものが育成されているのを目にする機会がほとんどなくなってしまっているので、食べ物がどのようにしてできているかというのを本当に知らないです。「今日植えた芋をいつ掘りに来るか」と聞くと「1 週間後に来ます」と言</p>

発言者	内容
E 委員	<p>います。半分ぐらいがそう思っています。それだけ食べ物っていうのは当たり前であって、そのような感じになっています。</p> <p>ちょうど 24 ページに、施策の展開の中で、校内体験栽培活動で収穫された食材を学校給食に活用するという項目があって、私自身体験しましたし、嬉しいなと思いました。ナスが食べられない子が学校で夏野菜を植えて育てるとナスをちゃんとおいしいと言って食べるようになったと担任の先生に喜んでいただきました。</p> <p>やはり自分で何か栽培するということ、先ほどもアンケートの中に、栽培体験をするのが 59.4%という結果が出ておりましたが、収穫体験では駄目なのです。育てる体験がなかったら本当の食農体験にならないと思っています。収穫体験はどこかの工場でお菓子を貰ってくるのとあんまり変わりません。育てる体験をしなければいけないと思います。</p> <p>自分の体験というのは単に野菜を植えるためだけじゃなく、その収穫できた喜びとか、達成感とか、うまく育たなかった失望感とか、それから、友達と協力したり、仲良く助け合ったりすることの大切さとか、おはようとかありがとうとか言ってくれるやさしい心とか、そういう机の上では学べないような、心を豊かにするこどもの情操教育のような面も加味されてくるのではないかと毎年農業体験をしていて思います。そういう体験をしたこどもたちは、100%消費者となるのです。今後大人になった時に、地元の農産物やその食べ物の大切さとか、なかなかできないものということを学んでくれると思って、私は今までずっと続けています。</p> <p>輸入の農産物も多く、いよいよ食と農の乖離というのはこれから起きていくと思います。次期の計画ではより「強力的に」そういう体験活動っていうのを、特にこどもたちも、スマホとかで、体験ということが非常に少なくなっているんで、ぜひそういう方策を今後、食育の方に入れていただきたいです。</p> <p>それとお手元にかかるたをファイルにしたものをお配りしているのですが、これは徳島県の女性農業経営者ネットワーク通称 You・Me（ゆめ）ネットと言っているのですが、女性の農業者たちが、徳島の農産物とか、食文化とか、人情とか、文化も含めて今から 17、8 年前にかかるたを作って、いろんな地元の小学校とか幼稚園に配ったのですが、ファイルにしてせつかく残そうということになって、ファイルにしましたので、また皆さんに読んでいただけたら嬉しいと思います。</p> <p>クイズ集を作ったり、旬の野菜のぬり絵を作ったり、できるだけこどもたちに食と農の繋がりを深くする活動をしておりますので、皆さんにお配りして使っていただけたら嬉しいと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>食育のツールとしても本当に有用なものを提供いただいたかと思います。農林水産体験というものは、食育基本計画の中でも毎回取り上げられていると思いますが、実際の「収穫」と「育てる」という部分は、あまりこれまでに注目されていなかった分野かと思いますので、今のご意見、なかなか難しいところもあると思いますが、ぜひ今回の計画にも反映させていただけたらと思います。</p> <p>実際に食べ物を「育てる」という経験の中で得られるものが、知識として与えら</p>

発言者	内容
会長	<p>れるだけのものよりも、得られるものがたくさんあるというところが、非常によく伝わる内容だったと思います。今回の計画には、こどもだけでなく「大人の食育」も加わっておりますが、食の体験を一時的な取組で終わらせるのではなく、食べ物にまつわる全てのことである「食育」を、生涯を通じて関わる食の基盤として築いていけたらと思います。結果的には「食」のあり方が健康課題につながるようになってきますので、農業生産の段階から消費に至るプロセスについてしっかりと理解することも含めて「食育」を大事にした計画にできたらいいと思います。</p> <p>その他、何かご意見ございますでしょうか。</p>
C 委員	<p>本当にそうだなと思ったのが、私の学校はD小学校で結構街中であって、周りにもあまり田んぼもなく、周りに生産者の方もいなく、でもD小学校では「食育」に力を入れてくださっていて、すごく小さな畑なのですが、学校の中であって、そこで収穫したものをパブリカであったり、ナスであったりを素揚げにしてカレーの上に乗せて食べさせたというのを給食試食会の時にお伺いして、そんなことをしてくださっているんだ、という正直、保護者としても、他の学校だったら作ったものを持って帰ってきているというのを聞いて、私は逆に「いいな」と、私たちからすれば「食材持って帰ってくれるんだ羨ましいな」という気持ちと、学校で先生たちが「今日3年生たちが収穫したものをカレーの上に載せてあるので食べてください」とこどもたちに伝えと、そのことを聞けばこどもはピーマンを食べます。「ナスも食べた。」という話を聞き、作る段階というのは私たちもすごく思っていて、私のところの校長先生は本物を体験させたいというのを常々言っております。</p> <p>私自身もこどもたちに何か体験させてあげたいというのは、親として思います。「食育」に対しても。でも私たちのツールの中では、その生産過程を一番最初からするというのは、どうしてもそのツールは持っていないくて、でも例えば学校によっては川内でしたら、お芋とか、その場所によって、学校によって、大規模校・小規模校によって、その近くにいらっしゃるのであれば、そこを提携するなど。例えば私は小学校の時に、どこかにバスで行ってお芋を掘ってそれを持って帰ったというのを遠足の中でした記憶もあります。</p> <p>今のこどもたちはどこか公園に行くとか、例えばUSJに行くとか、そういうことばかりしてしまいがちで、それは家でできるのではないかというのがあります。</p> <p>素案の14ページ「大人の食育」に今後も入れていただくのであれば、やはり大人にまず伝える。私の世代の人たちは何にも知らずに、わからず子育てをしています。私の娘が小学校6年生ですけれど、コロナ禍入学で一年生に上がった瞬間に学校が休みだったようなこどもなので、運動会とかもすごく縮小されたとか、そういう子たちが今もどんどん輩出されてきているのはすごい正直怖いなと私たちは感じています。なので、本物を体験させたいという気持ちで私たちもPTAをしていますが、やはり1個1個の小さな力でも、いっぱいになると、大きくなるし、私もどこがどんな生産をしているかは正直わかりません。</p> <p>D小学校で、もしそれを頼みたかったらどこに頼んでいったらいいのか、どこの地域にお願いしたらいいのか、となった時に、それを役所の方が、引き受けてくだ</p>

発言者	内容
C 委員	<p>さると、学校も伝えやすいというか、もし行きたいですってなったときに「ご協力してくださるところはこれだけありますよ」というのがあって、年間計画の中に入れていただけたら。興味はありますけれども、知りたいのに知れる場所がわかりません。なので教えて欲しいけれど、どこに伝えればいいのか正直わかりません。</p> <p>しかし、こどもたちがそれを学校で知るとそれを親に言ってくると思います。生産者の方にもずっと伝えていってもらって学校の方にも協力してくれるところがあるというのを知ること、私たちも、PTA と学校は今連絡アプリというものがあって、市教委も入れてくださっている。全員のご家庭にもアプリ配信っていうのができるのが3学期から全部できることになったので、情報発信のツールはあるので、生産者の方と役所の方と、いろんな団体があるのでそこがいろいろ協力し合えたらいいと思うので、ぜひしていきましょう。</p>
E 委員	<p>「食育」したいから来てくれませんかと神戸まで行っただけですけど、ものすごく大きなプランターをいっぱい並べてあって、そこでこどもたちに、お芋をしたんですけど、そこで食べ方なんかも、お母さん、PTA、が集まってやっていて、いろいろな情報提供がありました。</p> <p>やはり徳島は農産物が 50 品目も取れる地域ですので、ここで食べ物作らないとどうするんだと私は思っております。また何かありましたら。</p>
会長	<p>徳島県は農業も盛んなところでもありますし、これまでの話に出たように現場のニーズがしっかりあるということもわかったと思います。「食育」という面でやはり食べ物を作るということは欠かせないものでもあります。</p> <p>それぞれのニーズを繋いでいただくということは、行政の役割だと思いますので、ぜひ実際の体験に結びつくようなシステムを作っていただけたらいいと思います。</p>
事務局	<p>先ほど素案を説明する前に、資料3で、国の方向性をご説明させていただきました。この資料3の6ページの方に、もうすでに4月に閣議決定されております食料農業農村基本計画という部分で、ここに「食育」の推進についても述べられておるところでございます。</p> <p>(3) 国民の食卓と農業の生産現場の距離を縮める取組の拡大、ということで、国の方でも農業体験機会の提供のほか産直活動などの生産者と消費者が直接つながる取組を強化する、と示されておまして、ここの部分でこれから国も力を入れていくというようなことが述べられておるところでございます。</p> <p>計画素案の方に具体的な施策を載せるというのは難しいところではあるのですが、これが国の方からいろいろ市町村の方でこういう内容についての具体的な施策がおりてくるようになると思いますので、またそれぞれの委員さんにご協力をお願いしなければならないと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>
B 委員	<p>体験について今までいろいろとおっしゃっていただいて、すごく賛成です。昨日川内に芋を掘りに行って、明日も行ったら焼き芋をします。実際こういう体験しております。GWには田植え体験をしたり、年明け1月でしたらジャガイモを植えたり、5月から6月手前ぐらいに、こどもたちと一緒に掘るなど、実際にこどもたちの顔</p>

発言者	内容
B 委員	<p>を見たらわかります。植え付けから、収穫まではなかなか難しいところもあり、つまみつまみでもいいと思うのですけれど、できるところは一貫してすればいいし、芋であれば掘りに行くだけにはなるのですけれど、そのあと園の方で焼き芋をして、違うクラスに配ったりだとか、いろんな実際の体験としては、特にうちでは預かっているこどもが小さいので、こういう栄養素があるだとか、難しいことはわからないので、本当に経験する体験するという、「食育」は小さい頃から始まるのであれば、そこに力を入れてやっていきます。楽しい遊びの中で経験したことは4歳5歳になったら覚えていて、この体験がすごくいいと思います。「食育」はそんな難しいことではないとは思いますが、国の方でも表記があったみたいなので、体験の方に力を入れるのは大事なことです。田舎なので探せば何かあると思うので、そういう体験できるところを行政の方から発信して、連合会の方も含めて、いろんな発信してもらって、協力してもらって、少しでもできればいいと思います。</p> <p>ただ最近いろんな規制があり、あれしたら駄目これしたら駄目、学校で火を使ったら駄目とか、腹くくってやってくれたらすごく楽しい体験ができるのではないかなと思います。自分たちが楽しかった体験は多分こどもたちも楽しくできると思うし、どうしたら楽しく体験して、おいしく食べられるかをみんなで考えることも「食育」ではないかと思っています。</p>
E 委員	<p>今委員さんから体験についてお話いただいたのですが、私は学童保育のこどもたちにじゃがいも植え付けから収穫までして、どんな形で食べたいかを聞いて、料理も一緒に学童保育の会館で作って食べたらこどもたちの目が輝いているんですよ。自分たちで掘った芋で作って、料理することがまた楽しかったみたいで。ご家庭でもお母さん方やっぱりお忙しくて難しいと思うのですが、一緒にやはり料理する、栄養化もちろんですが、食べる楽しさや作る楽しさを経験したらこども自身が中食外食ではなくわが家の味を作るこどもになると思います。こどもたちが料理したことによって、こんなことも喜んでいるだということを実感しました。ご家庭でもぜひそういう体験をしていただきたいと思います。</p>
会長	<p>家庭も「食育」の現場となる場所として重要だと思いますので、家庭での「食育」にも力を入れていただけたらと思います。</p> <p>「食育」という言葉だけが独り歩きするのではなくて、先ほどから「食べることを楽しむ」ということも言われておりますけれども、本来、食べることは「楽しいこと」という要素が大きく含まれているものだと思いますので、その中で様々なことを学んでいただけたら、将来に続く「食育」となっていくと思います。今回、色々と委員の方から意見が出ましたが、そういった意見を反映しまして、最終案としてまとめていただけたらいいと思います。</p> <p>今回の素案に対しまして、何か修正等、必要なところはございますでしょうか。</p>
会長	<p>そうしましたら今回の素案をもとに、今意見をいただいた内容を踏まえて、最終案として進めさせていただけたらと思います。</p> <p>以上で本日の議事はすべて終了いたしましたので、事務局にお返しいたします。</p>

発言者	内容
事務局	<p>ありがとうございます。それでは次回の市民会議は、パブリックコメントの結果報告や最終計画案をお示しするように考えておりまして、開催は2月中旬ごろを予定しております。改めて通知をさせていただきますので、ご出席のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>以上をもちまして、第2回徳島市食育推進計画策定市民会議を終了いたします。本日は長時間、ありがとうございました。</p>